

公表 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援事業所きらり(重心多機能 放デイサービス)			
○保護者評価実施期間	2026年3月4日		～	2026年3月24日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数)	8
○従業者評価実施期間	2026年3月6日		～	2026年3月17日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数)	7
○事業者向け自己評価表作成日	2026年5月27日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童の状況に応じて丁寧な関わりができています	全職員がリアルタイムに情報を共有し、細やかな健康観察や感染対策を徹底しています。その上で、一人ひとりのコミュニケーションや姿勢を工夫し、「本人が楽しめる発見」を逃さない関わりを意識しています。	「強み」の見える化を行う。児童の小さな変化やポジティブな姿を写真やエピソード記録で残す
2	医師や専門職と連携を行い療育に活かすことができている	健康管理において、医師との迅速な連携により、感染症対策や体調不良への早期対応を徹底しています。専門職から正しい身体の使い方や装具の装着法を学び、個別の状況に応じた支援を行っています。	専門職による直接介入の場を増やすとともに、助言を現場の支援技術の向上に繋げる。
3	生活空間は心地よく過ごせる環境になっている	清潔で整理整頓された環境を維持するとともに、個々の感覚特性に配慮した調光・温湿度管理を徹底しています。快適かつ安全な環境づくりを実践しています。	事業所でうまくいっている環境調整を保護者に伝え、家庭と事業所の両面で本人の心地よさを追求する

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	送迎サービスの提供体制が整っていない	送迎要因の確保、また広範囲におよぶ送迎ルート構築が難しいため」	職員確保に努めながら、ニーズに応えられるように整えていきたい
2	地域との交流機会が不足している	感染症対策への配慮から集団活動を控えていた経緯がある。また、各学年の下校時間や職員配置の兼ね合いからも難しい	長期休暇の際、同法人敷地内の認可保育所との交流を行っていく
3	情報伝達は書面や口頭で丁寧に行っていますが、デジタル媒体の活用が限定的である	書面や口頭での個別周知に比重を置いて、Webの運用については、担当者で検討していなかった	保護者の要望を確認して検討していきたい